

# プログラム

## 1. 総会

9月1日(土) 11:00~12:00 (A会場:上條講堂)

## 2. 大会

### 1) 開会式

9月1日(土) 13:00~13:30 (A会場:上條講堂)

大会長 挨拶

文部科学省 祝辞

厚生労働省 祝辞

### 2) 特別講演

9月1日(土) 13:30~14:30 (A会場:上條講堂)

講師 大谷大学文学部 教授 荒瀬 克己

「教育改革としての高大接続改革」

座長 中村 明弘 (昭和大学)

### 3) 教育講演

9月2日(日) 13:00~14:00 (A会場:上條講堂)

講師 シンクタンク未来教育ビジョン 代表 鈴木 敏恵

「AI時代の教育と評価 意志ある学び-次世代プロジェクト学習」

座長 有田 悦子 (北里大学)

### 4) シンポジウム

<シンポジウム 1>

9月1日(土) 14:30~16:30 (A会場:上條講堂)

「薬学教育の現在と未来」

オーガナイザー 中村 明弘 (昭和大学薬学部 教授)

趣旨説明

中村 明弘 (昭和大学薬学部 教授)

- S1-1 高等教育における医療人養成の現在と未来  
(文部科学省 高等教育局 医学教育課)
- S1-2 薬剤師に求められる資質・能力の将来像  
安川 孝志 (厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 薬事企画官)
- S1-3 薬学教育の質保証の現在と未来ー薬学教育評価第2期に向けてー  
長谷川 洋一 (薬学教育評価機構 基準・要綱検討委員会、名城大学薬学部 教授)
- S1-4 大学教育改革の現在と未来ー大学評価の現場からー  
橋本 孝志 (大学基準協会評価事業部長、薬学教育評価機構アドバイザー)

総合討論

<シンポジウム 2>

9月1日(土) 14:30~16:30 (B会場:4号館600号教室)

「多職種連携教育」

オーガナイザー 木内 祐二 (昭和大学医学部 教授)

- S2-1 実務実習の一環として実施する臨床 IPE  
大久保 正人 (千葉大学医学部附属病院薬剤部 室長)
- S2-2 医系総合大学における体系的、段階的なチーム医療教育  
木内 祐二 (昭和大学医学部 教授)
- S2-3 医療系学部を有さない薬学部における多職種連携教育の実践:  
ー他の医療系学部との連携ー  
野田 幸裕 (名城大学薬学部 教授)
- S2-4 薬学部が先導する在宅がん医療・緩和ケアの大学間合同 IPE  
ー在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の取組ー  
中嶋 幹郎 (長崎大学薬学部 教授)

総合討論

<シンポジウム 3>

9月1日(土) 14:30~16:30 (C会場:4号館500号教室)

「Evidence-Based Medicine (EBM) 教育:誰が、何を、どのように教えるか」

オーガナイザー 北澤 京子 (京都薬科大学 客員教授)  
清水 忠 (兵庫医療大学薬学部 講師)

- S3-1 薬学部における EBM 教育  
佐々木 順一 (広島国際大学薬学部 准教授)
- S3-2 医学部における EBM 教育ーその現状とこれから必要なものー  
南郷 栄秀 (東京北医療センター総合診療科 医長)
- S3-3 医薬品情報学における EBM 教育  
大津 史子 (名城大学薬学部 教授)

- S3-4 大人数 EBM 演習方略としてのチーム基盤型学習  
上田 昌宏 (兵庫医科大学ささやま医療センター薬剤室)
- S3-5 インターネット上での EBM スタイル臨床教育プログラム  
青島 周一 (医療法人社団徳仁会 中野病院薬局)
- S3-6 EBM ワークショップの導入とその評価ー学生は EBM ワークショップで輝くー  
高垣 伸匡 (医療法人社団千春会 千春会病院内科 副部長)

総合討論

<シンポジウム 4>

9月1日(土) 14:30~16:30 (D会場:4号館301号教室)

「質的研究から見えるもの」

オーガナイザー 片岡 竜太 (昭和大学歯学部 教授)  
榎田 めぐみ (昭和大学保健医療学部 准教授)  
今福 輪太郎 (岐阜大学医学教育開発研究センター 講師)

導入

今福 輪太郎 (岐阜大学医学教育開発研究センター 講師)

- S4-1 医療者教育における主体的・対話的学習での学びを捉える  
今福 輪太郎 (岐阜大学医学教育開発研究センター 講師)
- S4-2 質的研究実践報告ー薬学教育学研究室での取り組みー  
永田 実沙 (摂南大学大学院薬学研究科 博士課程2年)
- S4-3 質的研究の手始めに  
榎田 めぐみ (昭和大学保健医療学部 准教授)
- S4-4 ポートフォリオの質的な解析と量的な解析のコラボレーション  
片岡 竜太 (昭和大学歯学部 教授)

総合討論

<シンポジウム 5>

9月2日(日) 9:00~11:00 (A会場:上條講堂)

「改訂コアカリキュラムに基づいた実務実習に向けて」

オーガナイザー 小佐野 博史 (帝京大学薬学部 教授)  
平田 収正 (大阪大学大学院薬学研究科 教授)

- S5-1 大学主導の実務実習を考える (プレトーク)  
小佐野 博史 (帝京大学薬学部 教授)
- S5-2 改訂モデル・コアカリキュラムに対応した薬学実務実習の在り方  
ー近畿地区における実施体制の整備ー  
平田 収正 (大阪大学大学院薬学研究科 教授)

- S5-3 東海地区における実務実習先行導入  
 ー大学・薬局・病院の連携による円滑な導入をめざしてー  
 鈴木 匡（名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授）
- S5-4 学習成果基盤型教育に基づく薬学実務実習における大学の課題  
 ー関東地区の状況ー  
 伊東 明彦（病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長、明治薬科大学 教授）

総合討論

<シンポジウム 6>

9月2日（日）9：00～11：00（B会場：4号館600号教室）

「自己成長を促す形成的評価 ～評価は“よりよき未来”のためにある～」  
 オーガナイザー 有田 悦子（北里大学薬学部 准教授）

オープニングリマークス  
 有田 悦子（北里大学薬学部 准教授）

導入講義 自己成長を促す評価とはー形成的評価の考え方と指標ー  
 渡邊 洋子（新潟大学創生学部 教授）

- S6-1 アクティブラーニングにおける学習姿勢の評価  
 ー初年次教育プログラムにおけるピア評価の導入ー  
 野呂瀬 崇彦（北海道科学大学薬学部 准教授）
- S6-2 ヒューマニティ科目間の繋がりを意識した模擬患者参加型実習  
 ールーブリックによる形成的評価と学習者の気づきー  
 竹平 理恵子（北里大学薬学部 助教）
- S6-3 実務実習における形成的評価  
 ー病棟における薬学的管理に関するルーブリック評価の実施と課題ー  
 栗原 竜也（昭和大学烏山病院 薬局長・昭和大学薬学部 講師）
- S6-4 医学生の学習をドライブする評価の挑戦ー学習者評価の新しいパラダイムー  
 西城 卓也（岐阜大学医学教育開発研究センター 准教授）

総合討論

<シンポジウム 7>

9月2日（日）9：00～11：00（C会場：4号館500号教室）

「パフォーマンスを測る課題・問題とは？」  
 オーガナイザー 大津 史子（名城大学薬学部 教授）  
 長谷川 洋一（名城大学薬学部 教授）

- S7-1 工学分野のチューニングプロジェクトによるパフォーマンスを測る問題作成  
 ー工作機械問題ー  
 鈴木 教和（名古屋大学大学院工学研究科 准教授）

S7-2 パフォーマンス課題としてのレポート課題の設定と評価  
成瀬 尚志（長崎大学大学教育イノベーションセンター 准教授）

S7-3 薬学分野におけるパフォーマンスを測る課題への取り組み  
大津 史子（名城大学薬学部 教授）

総合討論

<シンポジウム 8>

9月2日（日）9：00～11：00（D会場：4号館301号教室）

「薬剤師、いいね！」を目指して—薬剤師を対人援助職にするための教育とは—

オーガナイザー 伊原 千晶（京都学園大学人文学部 准教授）

趣旨説明

伊原 千晶（京都学園大学人文学部 准教授）

S8-1 職業イメージ調査から紐解く薬剤師の姿  
三保 紀裕（京都学園大学経済経営学部 准教授）

S8-2 ディスコミュニケーションの状況からみた対人援助力の必要性  
亀井 美和子（日本大学薬学部 教授）

S8-3 医療人養成のための Narrative-Based Medicine (NBM) 及び医療コミュニケーション教育の実践—昭和大学在宅チーム医療教育推進プロジェクト—  
亀井 大輔（昭和大学薬学部 准教授）

S8-4 薬剤師を対人援助職にするための教育とは - What(何を)? How(どのように)? -  
伊原 千晶（京都学園大学人文学部 准教授）

総合討論

<シンポジウム 9>

9月2日（日）14：00～17：00（A会場：上條講堂）

「薬剤師の生涯研鑽 ～卒前から卒後の連続性～」

オーガナイザー 亀井 美和子（日本大学薬学部 教授）

木内 祐二（昭和大学医学部 教授）

オープニング・リマークス

木内 祐二（昭和大学医学部 教授）

S9-1 医師の薬剤師兼業（任意分業）から国際標準の完全分業への移行の教育—さらば“真の薬剤師不在”129年—薬剤師は教育6年・代替不能の高度専門職—  
永井 恒司（公益社団法人日本薬剤学会 [医療 ZD と完全分業] FG 代表）

S9-2 臨床現場における薬剤師という医療人  
渡邊 大記（公益社団法人日本薬剤師会 常務理事）

S9-3 超高齢化社会で求められる薬剤師の取組み・対応力—行政の観点から—  
賀登 浩章（厚生労働省老健局老人保健課 薬事サービス専門官）

S9-4 英国の薬学教育システムと薬剤師生涯研鑽へのつながり  
松岡 一郎（松山大学薬学部 教授）

S9-5 看護師の継続教育—ジェネラリスト・スペシャリスト・管理者の育成—  
市川 幾恵（昭和大学看護キャリア開発・研究センター 特任教授）

総合討論

<シンポジウム 10>

9月2日（日）14：00～17：00（C会場：4号館500号教室）

「医療職専門教育のアクティブ・ラーニングを充実するために  
—医学教育の取り組みから—

オーガナイザー 泉 美貴（昭和大学医学部 教授）

S10-1 アクティブ・ラーニングとは  
—総論および医学教育学会における活動について—  
泉 美貴（昭和大学医学部 教授）

S10-2 協同学習：話し合い学習法—主体的・対話的で深い学びのために—  
神代 龍吉（湘南鎌倉医療大学設置準備室 副室長）

S10-3 リサーチマインドを涵養する基礎統合実習  
中島 昭（藤田保健衛生大学医学部 教授）

S10-4 ICTを活用したTBL  
三木 洋一郎（九州大学基幹教育院 教授）

S10-5 Team Based Learning (TBL) の仕掛けを活かす  
—大教室で少人数グループワークをやるための小道具—  
青木 昭子（東京医科大学八王子医療センター 教授）

S10-6 PBLからTBL、そしてCBLへの変遷  
小田 康友（佐賀大学医学部 教授）

S10-7 6年間を幅広く繋ぐシームレスなアクティブ・ラーニング  
長谷川 仁志（秋田大学大学院 教授）

総合討論 アクティブ・ラーニング クリニック

## 5) ワークショップ

### <ワークショップ 1>

9月1日(土) 14:30~16:30 (E会場:2号館4階ラーニングコモンズ)

「個性が輝くインクルージョンの実現

—合理的配慮と方略・評価の多様化、薬剤師としての資質の水準を考える—

オーガナイザー 安原 智久 (摂南大学薬学部 准教授)

菊池 千草 (名古屋市立大学大学院薬学研究科 講師)

### <ワークショップ 2>

9月1日(土) 13:30~16:30 (F会場:1号館5階PBL室)

「薬学教育研究、事始め」Part.3

編集委員会企画ワークショップ~薬剤師が考える薬学教育に関する研究デザイン~

オーガナイザー 有田 悦子 (北里大学薬学部 准教授)

亀井 美和子 (日本大学薬学部 教授)

松野 純男 (近畿大学薬学部 教授)

小佐野 博史 (帝京大学薬学部 教授)

### <ワークショップ 3>

9月2日(日) 9:00~11:00 (F会場:1号館5階PBL室)

「薬剤師・薬学生に対する在宅症例検討を体験してみよう！」

オーガナイザー 大光 正男 (第一薬科大学薬学部 准教授)

大澤 友二 (ひまわり薬局)

森内 宏志 (第一薬科大学薬学部 教授)

### <ワークショップ 4>

9月2日(日) 14:00~17:00 (B会場:4号館600号教室)

「大学・医療現場におけるロールプレイ実習の進め方と評価方法」

オーガナイザー 野呂瀬 崇彦 (北海道科学大学薬学部 准教授)

後藤 恵子 (東京理科大学薬学部 教授)

### <ワークショップ 5>

9月2日(日) 14:00~17:00 (E会場:2号館4階ラーニングコモンズ)

「医療者教育のための Institutional Research (IR)を考えよう」

オーガナイザー 恒川 幸司 (岐阜大学医学教育開発研究センター 助教)

岡田 聡志 (千葉大学アカデミック・リンク・センター 准教授)

大津 史子 (名城大学薬学部 教授)

### <ワークショップ 6>

9月2日(日) 14:00~17:00 (F会場:1号館5階PBL室)

「質的研究をデザインしてみよう！」

オーガナイザー 今福 輪太郎 (岐阜大学医学教育開発研究センター 講師)

榎田 めぐみ (昭和大学保健医療学部 准教授)

片岡 竜太 (昭和大学歯学部 教授)

## 一般講演（ポスター発表）

### ポスター会場 1： 4号館地下1階ホール

#### トピック：非臨床系卒前教育

受付 9月1日（土）12:30 -

掲示 9月1日（土）13:00 - 9月2日（日）17:00：撤去 9月2日（日）17:00-17:30

示説 9月1日（土）16:30 - 17:30（奇数）、9月2日（日）11:00 - 12:00（偶数）

学生発表 9月1日（土）16:30 - 17:30 <指定時間：8分審査員への示説、2分質疑応答>

学生発表（S-001～S-021）は、大会審査員による採点を行い、優秀発表賞を9月2日（日）に発表する。

- P-001 自己学習時間と成績との関係に関する3年間の調査研究  
（武庫川女子大薬）○北山友也、西村奏咲、三木知博
- P-002 クリッカーを活用した研修会参加前後における気分と意欲の変化及び関連性  
（<sup>1</sup>神戸薬大、<sup>2</sup>兵庫県立尼崎総合医療センター）○児玉典子<sup>1</sup>、西村克己<sup>1</sup>、内田吉昭<sup>1</sup>、川西和子<sup>1</sup>、安岡由美<sup>1</sup>、小山淳子<sup>1</sup>、佐子綾香<sup>2</sup>、和田昭盛<sup>1</sup>
- P-003 化学系薬学教育におけるグループワークへの構造式伝言ゲームの導入  
（国際医福大薬）○藤井幹雄、紺野奇重、加藤芳徳、多田納豊、八木秀樹、渡邊敏子、武田弘志
- P-004 薬学部高学年次生を対象としたアクティブラーニング型補講（第3報）  
（昭和薬大）○池野聡一、井上能博、宇都宮郁
- P-005 実験実習における能動的学修推進への取り組み  
—薬剤学実習に導入したジグソー法の効果について—  
（<sup>1</sup>京都薬大 学生実習支援センター、<sup>2</sup>京都薬大 薬剤学分野）○高尾郁子<sup>1</sup>、勝見英正<sup>2</sup>、森下将輝<sup>2</sup>、大谷有佳<sup>1</sup>、徳山友紀<sup>1</sup>、高田哲也<sup>1</sup>、千原佳子<sup>1</sup>、木村徹<sup>1</sup>、河野享子<sup>1</sup>、平山恵津子<sup>1</sup>、山本昌<sup>2</sup>、藤原洋一<sup>1</sup>
- P-006 薬学部6年生における薬物治療分野に対する問題基盤型学習の効果  
（<sup>1</sup>星薬大薬学教育研究部門、<sup>2</sup>ゆうま薬局）○井上信宏<sup>1</sup>、渡邊雅行<sup>2</sup>、中島りり子<sup>1</sup>、山内理恵<sup>1</sup>、大野修司<sup>1</sup>、久保元<sup>1</sup>、浅井和範<sup>1</sup>
- P-007 チーム基盤型学習による分析化学系講義・実習と専門英語の科目間連携  
（北陸大薬）○木藤聡一、池田ゆかり、東康彦、中越元子
- P-008 チーム基盤型学習（TBL）を活用したペア学習プログラムの導入による授業改善の試み  
（名城大薬・薬学教育開発センター）○飯田耕太郎、武永尚子
- P-009 クロスオーバー比較試験を用いたチーム基盤型学習（TBL）の学修効果に関する検討  
（就実大薬）○加地弘明、山崎勤、山田陽一、工藤季之、渡辺雅彦、末丸克矢、平本一幸、阿藤寛明、吉川弥里、塩田澄子
- P-010 基礎科学系科目におけるチーム基盤型学習（Team-based learning; TBL）後のアンケート分析（第二報）  
（東邦大薬）○水落茂樹、陳新樺、木島里紗、金木弘之、大井浩明

- P-011 反転授業と TBL を組み合わせた授業の効果の検証  
—自由記述アンケートの可視化に基づく TBL の効果の検証—  
(大阪薬大) ○佐藤卓史、山野菜穂、元村有希、堀貴子、妹尾怜、伊藤彩、高瀬真実、和田優花、大桃善朗、井上晴嗣、宮崎誠、長谷井友尋、倉田里穂、尾崎恵一
- P-012 「薬学英语入門」におけるジグソー法を用いた協調学習の効果的な予習方法の検討  
—ジグソー活動での深い学びを目指して—  
(<sup>1</sup>神戸薬大、<sup>2</sup>聖心女子大) ○細川美香<sup>1</sup>、竹内敦子<sup>1</sup>、田中将史<sup>1</sup>、小山淳子<sup>1</sup>、藤波綾<sup>1</sup>、西山由美<sup>1</sup>、和田昭盛<sup>1</sup>、北河修治<sup>1</sup>、益川弘如<sup>2</sup>、児玉典子<sup>1</sup>
- P-013 薬学系大学生対象の多義語の習得を中心とした英語専門用語の指導の試み  
(<sup>1</sup>大阪薬大薬・言語文化学、<sup>2</sup>同志社女子大薬・病態生理学、<sup>3</sup>神戸学院大)  
○スミス朋子<sup>1</sup>、天ヶ瀬葉子<sup>2</sup>、野口ジュディー<sup>3</sup>
- P-014 東北医科薬科大学薬学教育センターにおける学習支援活動の検証  
(東北医薬大薬) ○八百板康範、奥山祐子、渡部俊彦、伊藤邦郎、町田浩一、米澤章彦
- P-015 4 年次生成績下位者に自主的な学習習慣を習得させる取り組み  
(福岡大薬) ○刀根菜七子、能田均、糸山美紀、藤岡稔大
- P-016 初年次薬学入門実験の行動様式から導出される学力要指導学生  
(名城大薬) ○武田直仁、吉村恭嗣、植田康次、川村智子、武永尚子、田口忠緒、飯田耕太郎
- P-017 日本薬科大学における基礎学力養成のための取り組み  
—基礎学力養成プログラムの実践と評価 第1報—  
(<sup>1</sup>日本薬大薬・教養・基礎薬学部門、<sup>2</sup>日本薬大薬・臨床薬学部門) ○齋藤博<sup>1,2</sup>、岡村祥太<sup>2</sup>、石井優大<sup>2</sup>、市原里沙子<sup>2</sup>、稲葉由華<sup>2</sup>、寺田大貴<sup>2</sup>、海野由希子<sup>1</sup>、和田重雄<sup>1</sup>、木村道夫<sup>1</sup>、千葉輝正<sup>1</sup>、中村有貴<sup>1</sup>、小川晴久<sup>1</sup>、亀卦川誠也<sup>1</sup>、根岸新一<sup>1</sup>、足立哲也<sup>1</sup>、新井利次<sup>1</sup>、山崎敏彦<sup>1</sup>、大野元彦<sup>1</sup>、田端健治<sup>1</sup>、福嶋仁一<sup>1</sup>、松田佳和<sup>2</sup>、佐藤卓美<sup>1</sup>
- P-018 成績推移およびアンケート調査結果に基づく強化教育対象者選別法の評価  
(<sup>1</sup>武庫川女子大薬・薬学教育推進センター、<sup>2</sup>武庫川女子大薬・薬化学 I) ○西村奏咲<sup>1</sup>、川崎郁勇<sup>2</sup>、北山友也<sup>1</sup>、三木知博<sup>1</sup>
- P-019 リメディアル物理受講者の成績の動向  
(福岡大薬) ○糸山美紀、刀根菜七子、能田均、藤岡稔大
- P-020 リメディアル科目への TBL 形式の導入と検証  
(<sup>1</sup>大阪大谷大薬 薬学教育支援・開発センター、<sup>2</sup>武庫川女子大薬、<sup>3</sup>県立広島大保健福祉)  
○江崎誠治<sup>1</sup>、青江麻衣<sup>1</sup>、三浦健<sup>2</sup>、飯田忠行<sup>3</sup>、田中静吾<sup>1</sup>
- P-021 リメディアル科目 (化学) におけるアクティブラーニングの実践と評価  
—性格因子が教育効果にもたらす影響について—  
(<sup>1</sup>大阪大谷大薬 薬学教育支援・開発センター、<sup>2</sup>武庫川女子大薬) ○青江麻衣<sup>1</sup>、江崎誠治<sup>1</sup>、三浦健<sup>2</sup>、田中静吾<sup>1</sup>
- P-022 「薬学応用演習」におけるモラルディレンマ授業の取り組み  
—特にモラルディレンマ課題の開発と授業実践に関して—  
(立命館大薬) ○蓮元憲祐、谷浦秀夫、稲津哲也

- P-023 薬学生と医療倫理を考える  
—4分割法を用いた模擬症例に対するグループワークを通じて—  
(阪大院薬) ○幡生あすか、上田幹子、上島悦子
- P-024 薬学統合学習の構築 第3報  
—低学年次生への臨床薬学・薬理学・有機化学の橋渡し教育の導入—  
(<sup>1</sup>神戸薬大、<sup>2</sup>金城学院大薬) ○土生康司<sup>1</sup>、水谷暢明<sup>2</sup>、宮田興子<sup>1</sup>
- P-025 生化学の深層学習を目的としたシナリオベースの演習  
(広島国際大薬・<sup>1</sup>生理化学、<sup>2</sup>生化学、<sup>3</sup>有機生体分子化学、<sup>4</sup>分子薬理学)  
○山口雅史<sup>1</sup>、堀隆光<sup>2</sup>、長嶺憲太郎<sup>2</sup>、井口裕介<sup>3</sup>、瀧野純一<sup>2</sup>、神垣真由美<sup>4</sup>、世良行寛<sup>1</sup>、  
山下ユキコ<sup>3</sup>、宇根瑞穂<sup>3</sup>
- P-026 ARCS モデルの要素を取り入れたアンケートを用いた 横断的統合型初年次導入科目  
「薬学入門」の学習意欲改善の取り組み  
(神戸薬大) ○八巻耕也、池田宏二、中山喜明、上田久美子、土生康司、武田紀彦、佐野  
紘平、森脇健介
- P-027 実践能力(アウトカム)を重視した基礎衛生薬学実習の実施と検証  
(高崎健康福祉大薬) ○平野和也、河崎優希、本間成佳、松島加奈、村山佳奈美、矢野  
間千恵、三反崎聖、阿部すみ子、鈴木巖、吉田真
- P-028 知識の活用を目指した薬理学実習の改訂  
(愛知学院大薬) ○波多野紀行、武田良文、鈴木裕可、兒玉大介、大井義明、村木克彦、  
櫛彰
- P-029 ルーブリック評価表を用いた薬学基礎実習における学生自己評価と成績との相関性  
(東京薬大薬<sup>1</sup>薬学基礎実習教育センター、<sup>2</sup>病態生理学、<sup>3</sup>薬物代謝安全性学)  
○今田啓介<sup>1</sup>、長谷川弘<sup>2</sup>、藤田恭子<sup>2</sup>、三輪裕幸<sup>2</sup>、市田公美<sup>2</sup>、小倉健一郎<sup>3</sup>、西山貴仁<sup>3</sup>、  
大沼友和<sup>3</sup>、平塚明<sup>3</sup>、安藤堅<sup>1</sup>、佐藤弘人<sup>1</sup>、高橋浩司<sup>1</sup>、稲葉二郎<sup>1</sup>
- P-030 卒業時アンケートに基づく、学びにおける状況の確認と問題点の抽出  
(城西大薬) ○関俊暢、秋元祐佳里、細谷治、上田秀雄、岡崎真理、大嶋繁、坂本武史、夏目  
秀視、小林大介
- P-031 PBL チュートリアルにおけるルーブリックを用いた SGD ピア評価  
(東北医薬大薬) ○諸根美恵子、佐藤厚子、大河原雄一、高橋知子、原明義、小嶋文良、  
鈴木常義、中村仁、村井ユリ子、鈴木裕之、工藤香澄、吉村祐一、柴田信之
- P-032 構造式をモチーフとしたビンゴカードの作成と活用実践  
—化学の眼を持った質の高い薬剤師の輩出を目指して—  
(就実大薬) ○山川直樹、前田恵子、林佳世、塩田澄子、坪井誠二
- P-033 教養科目「生物学基礎II」履修前後の生物学に対する意識調査  
(高崎健康福祉大薬<sup>1</sup>薬学学修支援センター、<sup>2</sup>遺伝子機能制御学、<sup>3</sup>免疫・アレルギー学、  
<sup>4</sup>病態生理学) ○岡本健吾<sup>1,2</sup>、森哲哉<sup>1,3</sup>、田中祐司<sup>2</sup>、本間成佳<sup>1,4</sup>
- P-034 症例対照研究の手法を用いた薬学科1~3年生の進級に対するリスク要因の調査  
—学業成就のリスク要因は、過去・現在・未来のいずれに存在するか?—  
(千葉科学大薬) ○高橋真樹、森雅博、増澤俊幸、細川正清

- P-035 1年次SGD演習でチューターを担当した上級生への教育能力用Rubricによる自己評価の実施  
(摂南大薬)○串畑太郎、栗尾和佐子、安原智久、曾根知道
- P-036 入学後早期に行うコミュニケーション演習の取り組み  
(<sup>1</sup>山陽小野田市立山口東京理科大薬・薬学倫理学分野、<sup>2</sup>日本大獣医・獣医臨床繁殖学、<sup>3</sup>山陽小野田市立山口東京理科大薬・基礎薬学分野)○坂井久美子<sup>1</sup>、百溪江<sup>1</sup>、堀北哲也<sup>2</sup>、望月正隆<sup>3</sup>
- P-037 高崎健康福祉大学でのFD活動の取り組み  
—教員による講義の相互参観と授業評価—  
(高崎健康福祉大薬<sup>1</sup>薬学学修支援センター、<sup>2</sup>免疫・アレルギー学、<sup>3</sup>遺伝子機能制御学、<sup>4</sup>薬物毒性学、<sup>5</sup>薬効解析学、<sup>6</sup>分子生体制御学、<sup>7</sup>天然薬物学、<sup>8</sup>病態生理学、<sup>9</sup>分子設計化学)  
○森哲哉<sup>1,2</sup>、岡本健吾<sup>1,3</sup>、三反崎聖<sup>1,4</sup>、伊藤政明<sup>1,5</sup>、石嶋康史<sup>1,6</sup>、渡辺和樹<sup>1,7</sup>、本間成佳<sup>1,8</sup>、山際教之<sup>1,9</sup>
- P-038 日本薬科大学におけるヒューマニズム教育の醸成  
—新しい評価方法の構築とこれからの課題—  
(日本薬大)○久保田洋子、村橋毅、船山信次、小林力、前田智、熊本浩樹、中村有貴、荒井健介、小林賢、土井孝良、樋口敏幸、安西和紀
- S-001 TBLにおける個人の点数(iRAT)とチームの得点(tRAT)の関連性の検討  
(摂南大薬)○近藤真奈実、安原智久、曾根知道
- S-002 反転授業とTBLを組み合わせた授業の効果の検証  
—自由記述アンケートの可視化に基づく反転授業の効果の検証—  
(大阪薬大)○伊藤彩、山野菜穂、元村有希、堀貴子、妹尾玲、高瀬真実、和田優花、大桃喜朗、井上晴嗣、宮崎誠、長谷井友尋、倉田里穂、尾崎恵一、佐藤卓史
- S-003 薬学生の模擬服薬指導におけるSOAP形式での生活指導記録の評価  
(名古屋市立大薬)○瀬浪孟明、菊池千草、小田切州広、山口京子、鈴木匡
- S-004 薬学部新入生の患者安全意識の検討  
(<sup>1</sup>帝京大薬、<sup>2</sup>帝京大医、<sup>3</sup>帝京大医療共通教育研究センター)○長谷主帆<sup>1</sup>、朱暁人<sup>2</sup>、笹森千愛<sup>2</sup>、笠井健司<sup>2</sup>、大滝恭弘<sup>3</sup>
- S-005 3Dプリンタを用いた医薬品分子模型の作成  
(<sup>1</sup>近畿大院総合理工、<sup>2</sup>近畿大薬)○佐々木郁人<sup>1</sup>、仲西功<sup>2</sup>、松野純男<sup>2</sup>、大星直樹<sup>1</sup>
- S-006 新モデル・コアカリキュラムに従う学びの過程のルーブリックを用いた継続的な評価  
(城西大薬)○秋元祐佳里、細谷治、上田秀雄、一色恭徳、大嶋繁、坂本武史、夏目秀視、小林大介、関俊暢
- S-007 6年制薬学教育の中で育まれた緩和領域に関する学生の意識  
—大学内教育と実務実習経験の比較—  
(摂南大薬・薬学教育学)○田中佑実、安原智久、串畑太郎、曾根知道
- S-008 災害支援意欲がもたらす避難所運営ゲーム(HUG)の教育効果の差異  
(摂南大薬)○落合千波、安原智久、串畑太郎、曾根知道
- S-009 地域住民への健康情報の提供を繰り返し行うことによる薬学生の変化  
(帝京大薬)○安藤久美子、久保茉莉、厚味徹一

## ポスター会場2：5号館2階実習室

### トピック：臨床系卒前教育

受付 9月1日(土) 12:30 -

掲示 9月1日(土) 13:00 - 9月2日(日) 17:00：撤去 9月2日(日) 17:00-17:30

示説 9月1日(土) 16:30 - 17:30(奇数)、9月2日(日) 11:00 - 12:00(偶数)

学生発表 9月1日(土) 16:30 - 17:30 <指定時間：8分審査員への示説、2分質疑応答>

学生発表は、大会審査員による採点を行い、優秀発表賞を9月2日(日)に発表する。

- P-039 北海道科学大学薬学部6年生を対象とした少人数制フィジカルアセスメント演習—Visual Analog Scale を用いた演習前後のアンケート分析—  
(北海道科学大薬) ○藤本哲也、伊東佳美
- P-040 シミュレーターを利用したフィジカルアセスメント実習に対する意識動向の調査  
(<sup>1</sup>京大院薬 統合薬学教育開発センター、<sup>2</sup>京大医附属病院 看護部、<sup>3</sup>同 総合臨床教育・研修センター) ○津田真弘<sup>1</sup>、宗可奈子<sup>1</sup>、糺谷康子<sup>2</sup>、内藤知佐子<sup>3</sup>、山下富義<sup>1</sup>
- P-041 ルーブリック評価表を活用したアドバンスド OSCE の実施とその課題  
(新潟薬大薬 <sup>1</sup>臨床薬学、<sup>2</sup>薬効安全性学、<sup>3</sup>学生実習支援室、<sup>4</sup>生物薬剤学、<sup>5</sup>臨床薬物治療学) ○継田雅美<sup>1</sup>、小林靖奈<sup>2</sup>、阿部学<sup>1</sup>、笹木睦子<sup>3</sup>、宮下しずか<sup>1</sup>、南雲陽子、朝倉俊成<sup>1</sup>、久保田隆廣<sup>4</sup>、齊藤幹央<sup>1</sup>、坂爪重明<sup>1</sup>、若林広行<sup>5</sup>
- P-042 臨床実習後 OSCE 導入に向けたトライアルの実施  
(<sup>1</sup>福山大薬、<sup>2</sup>(株)エスマイル、<sup>3</sup>日本鋼管福山病院) ○田村豊<sup>1</sup>、小嶋英二郎<sup>1</sup>、佐藤英治<sup>1</sup>、五郎丸剛<sup>1</sup>、長崎信浩<sup>1</sup>、山下純<sup>1</sup>、広瀬雅一<sup>1</sup>、井上真<sup>2</sup>、玉井功<sup>3</sup>、鶴田泰人<sup>1</sup>
- P-043 チーム基盤型学習を用いた分野横断統合演習の構築  
(<sup>1</sup>神戸薬大、<sup>2</sup>姫路獨協大) ○上田久美子<sup>1</sup>、八巻耕也<sup>1</sup>、土生康司<sup>1</sup>、寺岡麗子<sup>1,2</sup>、宮田興子<sup>1</sup>、中山尋量<sup>1</sup>、北河修治<sup>1</sup>
- P-044 EBM を実践できる薬剤師養成のための学習プログラム構築のためのTBL & PBLハイブリッド学習プログラムの実施とその効果の測定  
(<sup>1</sup>東京薬大、<sup>2</sup>兵庫医大ささやま医療センター薬、<sup>3</sup>兵庫医療大薬) ○倉田香織<sup>1</sup>、上田昌宏<sup>2</sup>、清水忠<sup>3</sup>、土橋朗<sup>1</sup>
- P-045 武蔵野大学薬学部におけるグローバル社会に対応した国際交流プログラムの構築  
(<sup>1</sup>武蔵野大薬・臨床薬学センター、<sup>2</sup>Pacific University School of Pharmacy、<sup>3</sup>武蔵野大薬・薬学キャリア教育研究センター、<sup>4</sup>武蔵野大薬・薬物動態学、<sup>5</sup>武蔵野大薬・レギュラトリーサイエンス) ○小川ゆかり<sup>1</sup>、Marina Kawaguchi-Suzuki<sup>2</sup>、三原潔<sup>1</sup>、弓削田祥子<sup>3</sup>、西丸宏<sup>3</sup>、加瀬義夫<sup>3</sup>、伊藤清美<sup>4</sup>、永井尚美<sup>5</sup>
- P-046 “英語版くすりのしおり”を活用した融合的・学習成果型の臨床薬学英語教育  
(横浜薬大) ○大塚邦子、篠塚達雄
- P-047 神戸薬科大学における発信型海外薬学研修プログラムの構築と検証—米国薬学部でのプレゼンテーションと薬局フィールドワークの取り組み—  
(<sup>1</sup>神戸薬大 英語第二研究室、<sup>2</sup>神戸薬大 薬学臨床教育・研究センター) ○玉巻欣子<sup>1</sup>、田内義彦<sup>2</sup>

- P-048 在宅医療教育の新たな取り組み  
—大学教育と地域包括ケアセンターとの協働—  
(北海道医療大薬) ○浜上尚也、櫻田渉、木村治、藤崎博子、岩尾一生、及川孝司、青木隆、和田啓爾
- P-049 改訂コアカリ薬学実務実習へ向けての実習プログラムの構築と課題  
(<sup>1</sup> 福岡大薬 実務薬剤学、<sup>2</sup> 福岡大病院薬) ○安高勇氣<sup>1,2</sup>、塩塚昭一<sup>2</sup>、藤金治雄<sup>2</sup>、池内忠宏<sup>2</sup>、兼重晋<sup>2</sup>、大津友紀<sup>1,2</sup>、長郷あかね<sup>1,2</sup>、緒方憲太郎<sup>1,2</sup>、神村英利<sup>1,2</sup>
- P-050 病院実習中の代表的な8疾患の学習に対する当院の取り組み  
—調剤室における学習体制の構築—  
(滋賀医大医附属病院薬剤部) ○國津侑貴、巖西真、上田智弘、元持杏津子、福井里佳、柏木優花、増田恭子、寺田智祐
- P-051 疑義照会例の確認と処方解析による学習効果  
—処方を俯瞰する目を養成する—  
(滋賀医大医附属病院) ○上田智弘、國津侑貴、巖西真、福井里佳、元持杏津子、森田真也、寺田智祐
- P-052 薬局実務実習期間中における情報交換会実施の試み  
(徳島大薬 臨床薬学実務教育学) ○阿部真治、佐藤智恵美、田中朋子、久米哲也
- P-053 薬局実務実習におけるルーブリック評価の活用  
—学生自己評価と指導薬剤師評価の比較検討—  
(<sup>1</sup> 北里大薬、<sup>2</sup> 相薬薬局グループ、<sup>3</sup> 北里大メディカルセンター薬剤部)  
○山田路子<sup>1</sup>、米山桃子<sup>1</sup>、今井良紀<sup>2</sup>、河野和宏<sup>2</sup>、小川護<sup>2</sup>、向井潤一<sup>1</sup>、若杉昌輝<sup>1</sup>、久保田理恵<sup>1</sup>、尾鳥勝也<sup>1,3</sup>
- P-054 実務実習後アンケートを用いた実習の有意義度に関わる因子の探索  
(<sup>1</sup> 武蔵野大薬、<sup>2</sup> エコ薬局、<sup>3</sup> しもれん2 丁目薬局、<sup>4</sup> クオール株式会社)  
○田島純一<sup>1</sup>、小川潤子<sup>1</sup>、小川ゆかり<sup>1</sup>、小清水治太<sup>1</sup>、西牟田章戸<sup>1</sup>、吉井智子<sup>1</sup>、益戸智香子<sup>1</sup>、加藤眞由美<sup>1</sup>、高橋あゆみ<sup>1,4</sup>、田村祐輔<sup>1,3</sup>、宮川昌和<sup>1,2</sup>、高尾良洋<sup>1</sup>、三原潔<sup>1</sup>、山下直美<sup>1</sup>
- P-055 改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習に関する東北労災病院での検討  
(東北労災病院薬剤部) ○菅野和彦、菊地未由、大友眞菜、伊藤亮太、星野祐太、渡邊卓嗣
- P-056 昭和大学薬学部 薬物治療らせん型カリキュラムにおけるルーブリック評価の導入  
—成果報告—  
(昭和大薬) ○半田智子、神山紀子、栗原竜也、杉山恵理花、田中佐知子、山本仁美、向後麻里、加藤裕久、中村明弘
- P-057 昭和大学薬学部 薬局実務実習における「薬局クリニカルクラークシップ」導入の試み  
—第二報—  
(昭和大薬) ○山本仁美、柴田佳太、松林智子、熊木良太、加藤裕久、中村明弘
- P-058 当院における実務実習カリキュラムの改定  
～緩和ケアの実習における取り組み～  
(新渡戸記念中野総合病院薬剤科) ○降旗聖子、高松登

- P-059 『がん疾患』に関する実務実習生へのアンケート調査  
—より効果的な病棟実務実習をめざして—  
(藤田保健衛生大病院薬剤部) ○太田真紀子、熊澤里美、久保みさき、津川透、山田成樹
- P-060 実務実習における指導薬剤師の人的要因が薬学専門知識習得に及ぼす影響  
(慶應大薬 医療薬学・社会連携センター 医療薬学) ○前田智昭、菊山史博、鈴木小夜、横山雄太、地引綾、河添仁、中村智徳
- P-061 実務実習における疾患学習記録の先行導入  
—代表的な疾患への臨床対応成果の確認と薬局・病院間の連携ツールの構築—  
(福山大薬) ○広瀬雅一、木平孝高、長崎信浩、佐藤英治、吉富博則
- P-062 倫理科目への学生主体アクティブラーニング法の導入  
(新潟薬大) ○坂爪重明、山下菊治、岩田武男、宮下しずか
- P-063 医学部5年次生に対する医薬品使用に関する医療安全教育の効果  
(<sup>1</sup> 就実大薬、<sup>2</sup> 愛媛大医附属病院薬剤部、<sup>3</sup> 愛媛大医附属病院医療安全管理部) ○田坂祐一<sup>1</sup>、乗松真大<sup>2,3</sup>、安永大輝<sup>2</sup>、飛鷹範明<sup>2</sup>、戸田由美子<sup>3</sup>、鈴木 純<sup>3</sup>、田中亮裕<sup>2</sup>、田中守<sup>2</sup>
- P-064 薬学生を対象としたメンタルヘルスファーストエイド教育の導入とその評価  
—5年生の実務実習が自殺予防への関わりに及ぼす影響—  
(帝京大薬) ○齋藤百枝美、中村英里、村上勲、安藤崇仁、楯直子、栗原順一
- P-065 薬学部4年次生を対象とした医療安全対策教育へのPBL の導入  
(国際医療福祉大薬) ○加藤芳徳、伊藤 岳、杉山奈津子、平尾卓也、前澤佳代子、倉本敬二、山田治美、百瀬泰行、多田納豊、藤井幹雄、八木秀樹、渡邊敏子、武田弘志
- P-066 臨床準備教育における概略評価表(例示)〈近畿地区版〉の開発  
—実務実習生の臨床能力の質保証を目指す地区統一の試み—  
(<sup>1</sup> 近畿地区調整機構、<sup>2</sup> 摂南大薬、<sup>3</sup> 大阪薬大、<sup>4</sup> 武庫川女子大薬、<sup>5</sup> 姫路獨協大薬、<sup>6</sup> 兵庫医療大薬、<sup>7</sup> 近畿大薬、<sup>8</sup> 京都薬大) ○安原智久<sup>1,2</sup>、角山香織<sup>1,3</sup>、川崎郁勇<sup>1,4</sup>、佐藤卓史<sup>1,3</sup>、辻塚己<sup>1,2</sup>、木下淳<sup>1,5</sup>、清水忠<sup>1,6</sup>、長井紀章<sup>1,7</sup>、橋詰勉<sup>1,8</sup>
- P-067 新人薬剤師に求められる基本的な社会的スキルに関する研究  
—学生の実態—  
(<sup>1</sup> 神戸薬大 薬学臨床教育・研究センター、<sup>2</sup> 偕生病院、<sup>3</sup> エビラファーマシー、<sup>4</sup> きららみらい薬局、<sup>5</sup> ウィズ・グロー) ○村田明子<sup>1,2</sup>、中尾幸代<sup>1,3</sup>、松田裕子<sup>1</sup>、南恵理子<sup>1,4</sup>、山中智香<sup>1,5</sup>、沼田千賀子<sup>1</sup>
- P-068 新人薬剤師に求められる基本的な社会的スキルに関する研究  
—基本的な社会的スキルの分析—  
(<sup>1</sup> 神戸薬大 薬学臨床教育・研究センター、<sup>2</sup> エビラファーマシー、<sup>3</sup> 偕生病院、<sup>4</sup> きららみらい薬局、<sup>5</sup> ウィズ・グロー) ○中尾幸代<sup>1,2</sup>、村田明子<sup>1,3</sup>、松田裕子<sup>1</sup>、南恵理子<sup>1,4</sup>、山中智香<sup>1,5</sup>、沼田千賀子<sup>1</sup>
- P-069 城西国際大学薬学部の教育プログラム  
—臨床マインドの醸成が学力に及ぼす影響—  
(城西国際大薬) ○寺島朝子、酒井健介、小柳順一、中村洋、長谷川哲也、亀井智代、扶川武志、富山直樹、石崎幸、光本篤史

- P-070 次世代を担う薬剤師の育成 第15報  
—病院実務実習における改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応—  
(岡山大病院薬剤部)○猪田宏美、久保和子、榎田崇志、小川瑠子、北村佳久、千堂年昭
- P-071 福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み (4)  
—外向性、開放性と自己評価の関係—  
(福山大薬)○松田幸久、中村徹也、松岡浩史、高山健人、前原昭次、木平孝高、大西正俊、渡邊正知、五郎丸剛、道原明宏、小嶋英二郎、岡村信幸、長崎信浩、吉富博則、鶴田泰人、井上裕文、山下純
- P-072 福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み (5)  
—情緒不安定性、誠実性、調和性と自己評価の関係—  
(福山大薬)○松岡浩史、中村徹也、松田幸久、高山健人、前原昭次、木平孝高、大西正俊、渡邊正知、五郎丸剛、道原明宏、小嶋英二郎、岡村信幸、長崎信浩、吉富博則、鶴田泰人、井上裕文、山下純
- P-073 実務実習に向けた薬学統合演習のトライアルについて  
(就実大薬)○塩田澄子、加地弘明、毎熊隆誉、島田憲一
- P-074 離島へき地におけるインターンシップの受入れ構築と課題  
(医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院薬局)○宮坂善之、田中洋平
- P-075 卒業生調査に基づいた学習成果の客観的評価  
—社会が求めるニーズと卒業コンピテンスの整合性について—  
(<sup>1</sup> 東京薬大薬、<sup>2</sup> 東京薬大生命科学)○別生伸太郎<sup>1</sup>、矢野眞和<sup>1</sup>、日下田岳史<sup>1</sup>、横松力<sup>1</sup>、高橋勇二<sup>2</sup>
- S-010 実務実習後のアンケート調査から考えるむさしのIPE  
(武蔵野大<sup>1</sup> 薬学部臨床薬学センター、<sup>2</sup> 看護学科、<sup>3</sup> 人間科学部社会福祉学科、<sup>4</sup> 大学院人間科学部研究科人間学言語聴覚養成コース)○北林恵<sup>1</sup>、小川潤子<sup>1</sup>、益戸智香子<sup>1</sup>、山本摂子<sup>2</sup>、小俣智子<sup>3</sup>、小野真理子<sup>4</sup>、畠山恵<sup>4</sup>
- S-011 自己効力理論における制御体験が実習生の薬学専門知識修得に及ぼす影響  
(慶應大薬 医療薬学・社会連携センター 医療薬学部門)○菊山史博、鈴木小夜、前田智昭、横山雄太、地引綾、河添仁、中村智徳
- S-012 帝京平成大学薬学部・薬学科とヒューマンケア学部・看護学科の教育連携  
—薬剤師・保健師連携コースを中心として—  
(<sup>1</sup> 帝京平成大薬・薬学科、<sup>2</sup> 帝京平成大学ヒューマンケア学部・看護学科)○尾堤文音<sup>1</sup>、島崎学<sup>1</sup>、樫原芽依<sup>1</sup>、笠田江美里<sup>2</sup>、波多夏来<sup>2</sup>、平野夏希<sup>2</sup>、工藤恵子<sup>2</sup>、高橋郁子<sup>2</sup>、猪股久美<sup>2</sup>、網野寛子<sup>2</sup>、中村均<sup>1</sup>、安西偕二郎<sup>1</sup>

## ポスター会場3： 4号館2階 ピロティエ

### トピック：生涯研鑽・キャリア教育

受付 9月1日(土) 12:30 -

掲示 9月1日(土) 13:00 - 9月2日(日) 17:00 : 撤去 9月2日(日) 17:00-17:30

示説 9月1日(土) 16:30 - 17:30 (奇数)、9月2日(日) 11:00 - 12:00 (偶数)

学生発表 9月1日(土) 16:30 - 17:30 <指定時間：8分審査員への示説、2分質疑応答>

学生発表は、大会審査員による採点を行い、優秀発表賞を9月2日(日)に発表する。

- P-076 薬剤師対象で情報検索と統計に関する講習会を岡山県において試みた  
—薬剤師研修会を開催して判明した事柄について—  
(<sup>1</sup> 岡山県薬剤師教育研修協議会、<sup>2</sup> 就実大、<sup>3</sup> 岡山県薬剤師会、<sup>4</sup> 日本薬学図書館協議会)  
○柴田隆司<sup>1,2</sup>、堀部徹<sup>1,3</sup>、小田恵美子<sup>1,3</sup>、平紀子<sup>4</sup>
- P-077 臨床現場で論文情報を活用する方法について  
—薬剤誘発性せん妄に対する処方提案—  
(<sup>1</sup> 日本調剤横須賀薬局、<sup>2</sup> 日本調剤新横須賀薬局) ○根本真吾<sup>1</sup>、作田真礼奈<sup>2</sup>
- P-078 システマティックレビューの活用に向けたワークショップの実践と参加者の  
Evidence-based Medicine に対する意識調査  
(<sup>1</sup> 兵庫医大ささやま医療センター薬、<sup>2</sup> 兵庫医療大薬、<sup>3</sup> 医療法人千春会病院、<sup>4</sup> NPO 法人CASP Japan、<sup>5</sup> 神戸薬大、<sup>6</sup> 近畿大薬) 上田昌宏<sup>1</sup>、志方敏幸<sup>1</sup>、大原隆司<sup>2</sup>、高垣伸匡<sup>3,4</sup>、  
田内義彦<sup>5</sup>、伊藤栄次<sup>6</sup>、大森志保<sup>2</sup>、○清水忠<sup>2</sup>
- P-079 薬学的知見に基づく管理・指導に関する卒後研修会の有用性評価  
—ポリファーマシー状態の評価と処方提案—  
(大阪薬大) ○角山香織、中村敏明、中村任、宮崎誠、内田まよこ、永井純也
- P-080 SL 理論を導入したフィジカルアセスメント研修の教育効果の解析  
(<sup>1</sup> 東北医薬大・薬学教育センター、<sup>2</sup> 東北医薬大病院・薬剤学、<sup>3</sup> 東北医薬大・病態生理学、<sup>4</sup> 東北医薬大・臨床薬剤学、<sup>5</sup> 東北医薬大・薬剤学、<sup>6</sup> 東北医薬大・臨床薬剤学実習センター、<sup>7</sup> 東北医薬大・病態解析学) ○渡部俊彦<sup>1</sup>、薄井健介<sup>2</sup>、河野資<sup>3</sup>、鈴木裕之<sup>4</sup>、林貴史<sup>5</sup>、諸根美恵子<sup>1</sup>、小嶋文良<sup>6</sup>、伊藤邦郎<sup>1</sup>、高橋知子<sup>3</sup>、大河原雄一<sup>7</sup>、佐藤厚子<sup>1</sup>、米澤章彦<sup>1</sup>
- P-081 フィジカルアセスメント研修に基づいた臨床薬剤師教育への取り組み  
(<sup>1</sup> 大阪府済生会野江病院、<sup>2</sup> 済生会中和病院、<sup>3</sup> 済生会滋賀県病院、<sup>4</sup> 大阪府済生会茨木病院、<sup>5</sup> 大阪府済生会泉尾病院、<sup>6</sup> 済生会御所病院) ○段林正明<sup>1</sup>、雲望美<sup>3</sup>、小島慎二<sup>3</sup>、永井大地<sup>1</sup>、片山稔<sup>4</sup>、高木尚光<sup>5</sup>、西島宏明<sup>6</sup>、志野訓之<sup>2</sup>、高橋一栄<sup>1</sup>
- P-082 薬剤師の臨床研究の吟味方法の修学の実態と卒後の研究に対する認識の関連  
(<sup>1</sup> 大阪薬大社会薬学・薬局管理学、<sup>2</sup> 大阪薬大臨床実践薬学)  
○庄司雅紀<sup>1</sup>、楠本芽以<sup>2</sup>、荒川行生<sup>2</sup>、恩田光子<sup>1</sup>
- P-083 薬局薬剤師を対象とした“研究倫理教育”に関する意識調査  
(北里大薬 薬学教育研究センター医療心理学) ○有田悦子、小倉未来、竹平理恵子
- P-084 薬学生涯研修と在宅医療  
—大学から発信する地域医療—  
(高崎健康福祉大薬・臨床薬学教育センター) ○土井信幸、糸井重勝、高橋恵美利、岡田裕子、前田恵里、小見暁子、大林恭子
- P-085 参加型生涯研修プログラムの有用性評価  
—昭和大学薬剤師生涯研修認定制度（平成29年度）の検証—  
(<sup>1</sup> 昭和大薬、<sup>2</sup> 品川薬剤師会) ○芦野隆<sup>1</sup>、田中佐知子<sup>1</sup>、亀井大輔<sup>1</sup>、唐沢浩二<sup>1</sup>、高松智<sup>1</sup>、小林文<sup>1</sup>、阿部誠治<sup>1</sup>、熊木良太<sup>1</sup>、佐口健一<sup>1</sup>、加藤肇<sup>1,2</sup>、倉田なおみ<sup>1</sup>、加藤裕久<sup>1</sup>、中村明弘<sup>1</sup>

- P-086 薬剤師を対象とした処方提案ワークショップ実施後のアンケート調査と解析  
 (1 兵庫医大ささやま医療センター薬、<sup>2</sup> NPO 法人AHEADMAP、<sup>3</sup> 新須磨病院、<sup>4</sup> 大阪さやま病院、<sup>5</sup> 株式会社アカカベ薬局、<sup>6</sup> 田野病院、<sup>7</sup> 兵庫医療大薬、<sup>8</sup> 武庫川女大薬)  
 ○上田昌宏<sup>1</sup>、稲生貴士<sup>2,3</sup>、村田繁紀<sup>2,4</sup>、新原博輝<sup>2,5</sup>、豊山美琴<sup>6</sup>、大原隆司<sup>7</sup>、中澤公揮<sup>7</sup>、西村奏咲<sup>8</sup>、清水忠<sup>7</sup>
- P-087 ネットワーク対応型インタラクティブ就職情報提供システムの構築  
 —大画面ディスプレイのタッチパネル化とネットワーク化—  
 (大阪大谷大薬) ○初田泰敏、田中高志、中田雄一郎、面谷幸子、名徳倫明
- P-088 薬局薬剤師に対する基本的臨床医学知識習得を目的とした卒後教育への取り組み  
 —薬理学に加えて生理学(体のしくみ)を学び病態を理解する—  
 (社会医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンター 薬剤部) ○山田雅也
- P-089 An Inter-professional Community Education Initiative  
 —Preparing for an Emergency or Disaster—  
 (1 第一薬大、<sup>2</sup> 公益社団法人 大分県薬剤師会、<sup>3</sup> 別府市役所) ○ Denise A. Epp<sup>1</sup>、伊藤裕子<sup>2</sup>、村野淳子<sup>3</sup>
- P-090 医学教育手法を取り入れた専門薬剤師教育  
 —カリキュラム評価導入による教育プログラムの継続的ブラッシュアップ—  
 (1 株式会社マスカット薬局、<sup>2</sup> 社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター)  
 ○小川壮寛<sup>1</sup>、松下明<sup>2</sup>、守安洋子<sup>1</sup>、松坂英樹<sup>2</sup>、高見陽一郎<sup>1</sup>、高橋正志<sup>1</sup>
- P-091 「かかりつけ薬剤師」に必要なコンピテンシー  
 —契約を有する薬剤師への面接調査の結果から—  
 (1 慶應大看護医療、<sup>2</sup> 東京女子医大医学教育学) ○杉本なおみ<sup>1</sup>、菅沼太陽<sup>2</sup>
- P-092 事例検討を用いた薬剤師在宅研修プログラムの有用性  
 —在宅チーム医療教育実習指導者養成ワークショップの評価—  
 (昭和大薬・在宅チーム医療教育指導者養成WG) ○佐野敦彦、田中佐知子、平岡千英、山崎敦代、亀井大輔、倉田なおみ、半田智子、榎田めぐみ、小川路代、福村基徳、篠原久仁子、佐口健一、加藤裕久、中村明弘
- S-013 オーストラリアで実践される「在宅服薬管理」スキルアッププログラムの効果策定に対する考察  
 (1 東京理科大理、<sup>2</sup> 上田薬剤師会) ○小林大高<sup>1</sup>、飯島裕也<sup>2</sup>
- S-014 化学構造式を考慮した処方提案を目指すワークショップの実践とその評価  
 (1 兵庫医療大薬、<sup>2</sup> 兵庫医大ささやま医療センター薬、<sup>3</sup> 武庫川女子大薬) ○中澤公揮<sup>1</sup>、大原隆司<sup>1</sup>、上田昌宏<sup>2</sup>、西村奏咲<sup>3</sup>、清水忠<sup>1</sup>
- S-015 e-ラーニングとOSCE をハイブリッドし実践力の質を保証する次世代型薬剤師セミナーの開発  
 (1 秋田大・医学教育学、<sup>2</sup> 秋田大・総合地域医療推進学) ○百瀬和<sup>1</sup>、蓮沼直子<sup>2</sup>、長谷川仁志<sup>1</sup>

## ポスター会場4： 5号館6階実習室

トピック：卒前教育・共用試験・国家試験・その他

受付 9月1日(土) 12:30 -

掲示 9月1日(土) 13:00 - 9月2日(日) 17:00 : 撤去 9月2日(日) 17:00-17:30

示説 9月1日(土) 16:30 - 17:30 (奇数)、9月2日(日) 11:00 - 12:00 (偶数)

学生発表 9月1日(土) 16:30 - 17:30 <指定時間:8分審査員への示説、2分質疑応答>

学生発表は、大会審査員による採点を行い、優秀発表賞を9月2日(日)に発表する。

- P-093 愛知学院大学薬学部・歯学部1年生による多職種連携教育の実施と評価  
(<sup>1</sup>愛知学院大薬、<sup>2</sup>愛知学院大歯) ○恒川由巳<sup>1</sup>、渡邊法男<sup>1</sup>、浦野公彦<sup>1</sup>、平居貴生<sup>1</sup>、久保勝俊<sup>2</sup>、横田たつ子<sup>2</sup>、中村信久<sup>2</sup>、前川眞見子<sup>2</sup>、水谷誠<sup>2</sup>、鈴木一吉<sup>2</sup>、河村好章<sup>1</sup>
- P-094 1年次ハンディキャップ体験における視覚障害者への薬袋作成グループワークがもたらす学習効果  
(摂南大薬) ○栗尾和佐子、竹安智子、串畑太郎、安原智久、曾根知道
- P-095 アウトカム基盤型の初年次教育プログラムの実践はGPAに影響を及ぼすか？  
(北陸大薬・薬学教育研究センター) ○中越元子、木藤聡一、倉島由紀子、武本眞清、畑友佳子
- P-096 北陸大学における初年次教育導入プログラムの実践  
—プレSEEDの振り返り—  
(北陸大薬・薬学教育研究センター) ○畑友佳子、木藤聡一、倉島由紀子、武本眞清、中越元子
- P-097 6年制薬学部に入學した1年生の喫煙に関する意識調査研究  
—喫煙家族の影響—  
(<sup>1</sup>日本薬大・薬学科、<sup>2</sup>日本薬大・ビジネス薬学科) ○土井孝良<sup>1</sup>、齋藤勝也<sup>1</sup>、田村 道<sup>1</sup>、西川由浩<sup>1</sup>、村井保之<sup>2</sup>
- P-098 初年次前期の学習記録の継続性は、2・3年次への進級を予見する指標となるか  
(北陸大薬) ○武本眞清、木藤聡一、宮崎淳、竹井巖、倉島由紀子、畑友佳子、中越元子
- P-099 初年次教育プログラムの自己評価から示唆される留年防止対策について  
(北陸大薬・薬学教育研究センター) ○倉島由紀子、木藤聡一、武本眞清、畑友佳子、中越元子
- P-100 高次元データの可視化を用いたクラス分け手法の探索  
(第一薬大) ○松延千春、井上寛、清水典史、椿友梨、白谷智宣
- P-101 中国語教育との連携による薬用植物関連教科での教育効果向上への取り組み  
—生薬を中国語教材として取り上げることによる薬用植物教科学習意識の変化—  
(奥羽大薬) ○伊藤徳家、劉芳、伊藤頼位
- P-102 昭和大学薬学部における国際交流の現状と成果  
—国際交流センターの役割を中心に—  
(<sup>1</sup>昭和大・国際交流センター、<sup>2</sup>昭和薬大) ○平泉由香<sup>1</sup>、橋本みゆき<sup>1</sup>、マイケル マイヤース<sup>1</sup>、板部洋之<sup>2</sup>、中村明弘<sup>2</sup>、宮崎隆<sup>1</sup>

- P-103 Kessler10(K10)によるメンタルヘルス調査をもとにした新入生への対応  
—支援体制構築に関する予備的研究—  
(第一薬大) ○藤元慎太郎、芦刈綾香、小山進
- P-104 日本薬科大学における基礎学力養成のための取り組み 2  
—基礎学力向上プログラムの実践と評価—  
(日本薬大・教養・基礎薬学部門) ○和田重雄、木村道夫、齋藤 博、小川晴久、亀卦川  
誠也、根岸新一、足立哲也、新井利次、山崎敏彦、大野元彦、田端健治、福嶋仁一、千葉  
輝正、中村有貴、佐藤卓美
- P-105 改訂モデル・コアカリキュラムに基づいた薬学共用試験 (OSCE) 新規課題の評価と問題点  
の抽出  
(就実大薬) ○小野浩重、加地弘明、毎熊隆誉、島田憲一、手嶋大輔、柴田隆司、荒木  
博陽
- P-106 薬学共用試験 OSCE 課題の見直し  
—薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴う新規課題の作成と現課題の改訂—  
(<sup>1</sup>薬学共用試験セ、<sup>2</sup>昭和大薬、<sup>3</sup>武庫川女大薬、<sup>4</sup>京都薬大、<sup>5</sup>熊本大薬、<sup>6</sup>名城大薬、  
<sup>7</sup>北里大薬、<sup>8</sup>徳島文理大薬、<sup>9</sup>広島大薬、<sup>10</sup>昭和大医、<sup>11</sup>福山大薬、<sup>12</sup>東北大薬、<sup>13</sup>長崎大  
薬、<sup>14</sup>金沢大薬、<sup>15</sup>慶應大薬、<sup>16</sup>帝京大薬) ○向後麻里<sup>1,2</sup>、岡村昇<sup>1,3</sup>、橋詰勉<sup>1,4</sup>、入江  
徹美<sup>1,5</sup>、野田幸裕<sup>1,6</sup>、有田悦子<sup>1,7</sup>、石田志朗<sup>1,8</sup>、小澤孝一郎<sup>1,9</sup>、木内祐二<sup>1,10</sup>、木津純子<sup>1</sup>、  
田村豊<sup>1,11</sup>、富岡佳久<sup>1,12</sup>、中嶋幹郎<sup>1,13</sup>、松下良<sup>1,14</sup>、松元一明<sup>1,15</sup>、吉富博則<sup>1,11</sup>、奥直人<sup>1,16</sup>
- P-107 薬剤師国家試験問題を活用したアクティブラーニングの構築と実践  
—就実大学薬学部におけるサイエンスコミュニケーションの実践②—  
(就実大薬) ○守谷智恵、川上賀代子、山川直樹、森山圭、齋藤啓太、加藤久登、石崎厚、  
塩田澄子、坪井誠二
- P-108 学修計画の立案における薬剤師国家試験合否予測モデルの有用性  
(第一薬大) 清水典史、井上寛、松延千春、椿友梨、○白谷智宣
- P-109 武蔵野大学薬学部における薬剤師国家試験合格への学習方略の検討  
—薬剤師国家試験合格と得意科目の相関性—  
(武蔵野大薬 <sup>1</sup>薬学キャリア教育研究センター、<sup>2</sup>薬物動態学、<sup>3</sup>臨床薬学センター、  
<sup>4</sup>レギュラトリーサイエンス) ○弓削田祥子<sup>1,2</sup>、西丸宏<sup>1</sup>、馬場本絵未<sup>1</sup>、小川ゆかり<sup>3</sup>、  
工藤敏之<sup>2</sup>、山岸喜彰<sup>2</sup>、永井尚美<sup>4</sup>、伊藤清美<sup>2</sup>、加瀬義夫<sup>1</sup>
- P-110 実践的思考を養うための既出問題の抽出と分析  
—第103回薬剤師国家試験(実践問題)の正答率の差より読み解く—  
(学校法人医学アカデミー 薬学ゼミナール) ○辻学志、岡本耕司、松田真佐一、  
山下真功、白川和宏、横井宏哉、赤岩容子、佐々龍範、鯨坂孝志、杉本実希子、  
政野敬史、稲田このみ、西川実希、村上理、高田直樹、木暮喜久子
- P-111 新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査  
—「法規・制度・倫理」の試験問題から—  
(<sup>1</sup>城西大薬、<sup>2</sup>城西大薬局) ○沼尻幸彦<sup>1</sup>、小島裕<sup>1</sup>、黒田陽子<sup>1</sup>、木村聡一郎<sup>1</sup>、  
近藤誠一<sup>1</sup>、荻原政彦<sup>1</sup>、新津勝<sup>1</sup>、北原嘉泰<sup>1</sup>、堀井徳光<sup>1,2</sup>、井上直子<sup>1,2</sup>、大嶋繁<sup>1,2</sup>、  
脇山春菜<sup>1</sup>、秋元勇人<sup>1</sup>、沖田光良<sup>2</sup>、根岸彰生<sup>1</sup>、大島新司<sup>1</sup>、小林大介<sup>1,2</sup>

- P-112 6年制薬学課程における留年・卒業延期・国家試験合格の関係  
 (1 武庫川女子大薬・薬学教育推進センター、2 椋山女学園大、3 武庫川女子大薬・臨床薬学)  
 ○三浦健<sup>1</sup>、速水幹也<sup>2</sup>、山森元博<sup>3</sup>、安井菜穂美<sup>1</sup>
- P-113 早期臨床体験における災害時の薬剤師の活動を学ぶ取り組み  
 —東日本大震災の被災地を訪問して災害時の薬剤師の役割を考える—  
 (岩手医大薬・<sup>1</sup>臨床薬学講座薬学教育学、<sup>2</sup>臨床薬学講座地域医療薬学分野、<sup>3</sup>生物薬学講座生体防御学) ○奈良場博昭<sup>1</sup>、青山玲子<sup>1</sup>、熊谷明知<sup>1</sup>、大橋綾子<sup>3</sup>、高橋寛<sup>2</sup>
- P-114 レジデント制度における病棟研修の改善  
 (千葉大医附属病院薬剤部) ○宮本仁、内田雅士、石川雅之、坂野恵理子、金子裕美、大久保正人、横山威一郎、中村貴子、鈴木貴明、石井伊都子
- P-115 実務実習における病院と薬局による合同発表会の試み(第2報)  
 —病院実習と薬局実習の連携を目指して—  
 (1 藤田保健衛生大病院薬、2 愛知県西知多薬剤師会いとう薬局つつじが丘店)  
 ○久保みさき<sup>1</sup>、太田真紀子<sup>1</sup>、津川透<sup>1</sup>、伊藤裕至<sup>2</sup>、山田成樹<sup>1</sup>
- P-116 薬学教育モデル・新コアカリキュラムにおける「8疾患」の領域横断型演習の試み  
 (長崎国際大薬) ○深澤昌史、田中啓太郎、山口拓、榎原隆三、小林秀光
- P-117 薬学共用試験 CBT—2017年度結果について  
 (1 薬学共用試験セ、2 慶應大薬、3 北里大薬、4 昭和大薬、5 東京理大薬、6 摂南大薬、  
 7 福岡大薬、8 帝京大薬、9 熊本大薬、10 東大薬、11 文京学院大保、12 近畿大薬)  
 ○石川さと子<sup>1,2</sup>、伊藤智夫<sup>1,3</sup>、中村明弘<sup>1,4</sup>、増野匡彦<sup>1,2</sup>、伊藤喬<sup>1,4</sup>、宮崎智<sup>1,5</sup>、前田  
 定秋<sup>1,6</sup>、山口政俊<sup>1,7</sup>、出口芳春<sup>1,8</sup>、石塚忠男<sup>1,9</sup>、三田智文<sup>1,10</sup>、飯島史朗<sup>1,11</sup>、  
 松野純男<sup>1,12</sup>、奥直人<sup>1,8</sup>
- P-118 官学連携した薬学キャリア教育の取り組みとその検証  
 —高校生一日薬剤師体験教室—  
 (1 日本薬大、2 埼玉県保健医療部薬務課) ○藤原邦彦<sup>1</sup>、野澤直美<sup>1</sup>、松田佳和<sup>1</sup>、藤掛佳男<sup>1</sup>、  
 西川由浩<sup>1</sup>、鈴木勝宏<sup>1</sup>、山路誠一<sup>1</sup>、松村久男<sup>1</sup>、河村剛至<sup>1</sup>、斉藤博<sup>1</sup>、佐古兼一<sup>1</sup>、天下井  
 昭<sup>2</sup>、丹戸秀行<sup>2</sup>
- P-119 学内実習教育の一元化について  
 —実習系相互の連携を図り、引継ぎを念頭においた検証—  
 (城西大薬) ○木村哲、小林大介
- P-120 卒業研究のルーブリック評価表の作成とその利用効果  
 (明薬大) ○熊澤美裕紀、池田玲子、石井一行、花田和彦、菅野敦之、杉山重夫、深水  
 啓朗、鈴木俊宏、服部研之、町田いづみ、高野麻子、三田充男、石橋芳雄
- P-121 教育者を育成する薬学教育プログラムの確立と構築  
 —到達目標：「くすり教育」を取り入れた「薬物乱用防止教育」が実践できる—  
 (北陸大薬) ○宇佐見則行、佐藤安訓、池田啓一、中越元子、村田慶史
- P-122 薬学生及び薬剤師の医療面接スキルアップに関するワークショップの試み  
 —在学生と卒業生のコミュニケーションから見えるもの—  
 (帝京大薬) ○長谷川仁美、武田佳奈、中村英里、林和平、奥秋美香、岩澤晴代、渡辺  
 茂和、岸本成史

- P-123 薬学生の薬剤師活動への意識向上を目指したワークショップ  
—薬剤師活動への期待、不安や疑問の抽出と対応策の検討—  
(<sup>1</sup>(株)メディセレ、<sup>2</sup>慶大薬、<sup>3</sup>東大院薬) ○児島恵美子<sup>1</sup>、堀里子<sup>2</sup>、三木晶子<sup>3</sup>、佐藤  
宏樹<sup>3</sup>、澤田康文<sup>3</sup>
- P-124 薬学生による「認知症カフェ」の取り組み  
—メモリーブック作成による認知症患者と家族介護者との交流プログラム—  
(<sup>1</sup>神戸薬大臨床心理学、<sup>2</sup>神戸薬大地域連携サテライトセンター)  
○中島園美<sup>1</sup>、高尾宜久<sup>2</sup>
- P-125 旧コアカリキュラムを修了した薬局薬剤師が考える薬学部教育と臨床現場とのギャップ  
およびその解消に向けて  
(株式会社マスカット薬局) ○懸山啓太、小川壮寛、守安洋子、高橋正志
- P-126 記憶効率に影響を与える要因についての調査研究  
(東京薬大薬) ○藤野智史、田邊怜大、高田直人、染谷慶壮、早川磨紀男
- S-016 国家試験から見た薬剤師が社会から求められている知識  
—看護師国家試験と比較して—  
(名城大薬 医薬品情報学) ○松本涼、酒井隆全、田辺公一、大津史子
- S-017 薬剤師国家試験における症例問題の効果的な学習方法の検討  
—シミュレーション学習システム e-PDE を利用—  
(名城大薬 医薬品情報学) ○曾我莉花、酒井隆全、田辺公一、大津史子
- S-018 薬学生による小学校でのくすり教育  
—一般用医薬品を用いた実験授業—  
(明治薬大薬) ○染谷拓臣、長島ちひろ、山崎紀子、熊澤美裕紀
- S-019 アドミッションポリシーとディプロマポリシーから見える私立薬科大学の特徴  
(近畿大薬) ○村瀬惇、山下由依亜、小野田良、八軒浩子、北小路学、中村武夫、伊藤  
栄次、大内秀一、和田哲幸、松野純男
- S-020 気づきの体験学習がもたらす協同作業認識とディスカッションスキルの認識の変化  
(<sup>1</sup>帝京大薬、<sup>2</sup>帝京大医療共通教育研究セ) ○大竹隼生<sup>1</sup>、長谷川仁美<sup>1</sup>、高塚人志<sup>2</sup>、奥秋  
美香<sup>1</sup>、名取雄人<sup>1</sup>、岩澤晴代<sup>1</sup>、楯直子<sup>1</sup>、岸本成史<sup>1</sup>
- S-021 薬学生の対人コミュニケーション能力に関する意識調査  
(慶應義塾大薬) ○久米悟司、小高幹雄、小林典子、井上賀恵、石川さと子、横田恵理子